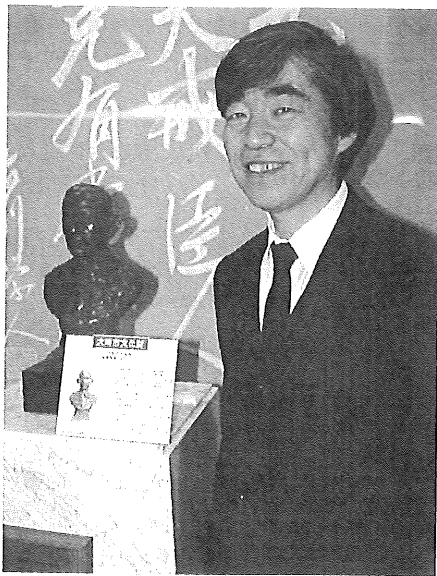


ひと

吉野作造記念館長

うじいえ
氏家

ひとし
仁さん(61)



もともとは高校社会科の教諭。南郷農高(現南郷高)、泉館山、古川の3校で約20年教壇に立った。「自分のやり残したことは、子どもたちに政治教育をすること」と考える。

生まれは栗原市。築館高、福島大経済学部卒。大学時代は政治学や政治思想を学び、政治学者・丸山眞男の弟子にあたる

民主主義のふるさとを目指す

人に教わった。県教委高校教育課長や古川黎明中高校長なども務めた。昨年3月、仙台三高校長を最後に定年退職。同4月に吉野作造記念館の学校教育支援アドバイザーとなり、県内の高校へ出向いて主権者教育に奔走。市内で吉野の

文献を読む勉強会も開いた。「選挙権年齢がやっと18歳まで下りてきた。子どもにも、その親にも、自分の声を届ける普通選挙の大切さを分かってもらいたい」

「とたたえると同時に、「吉野は敵だ」と思う人とも仲良くした。人間的な魅力がある」と語る。大崎にとって記念館の存在は「宝の一つ」。吉野が「民本主義」を唱えてから昨年で100年を迎え、来年1月29日には生誕140年の節目とな

る。吉野と同世代の偉人を掘り起こした企画展を開催する考えもあり、記念館を盛り上げる意欲を見せている。

昨年度の来場者数は1万5000人を超えた。「リピーターを増やすために、吉野にまつわる「ランチ」や、ポイントをためると入館料が無料になる制度などを企画してみるのもありかもしれない。地域の人に親しまれて愛される場所、そして『民主主義のふるさと』として全国的に名をはせる場所を目指す」と力を込める。

勤務は週3日。仙台市泉区で妻と2人で暮らす。趣味は落語や映画鑑賞、美術館巡り。